

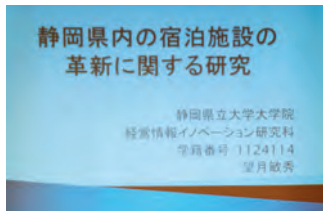


静岡県立大学大学院経営情報イノベーション研究科

望月敏秀

「静岡県の旅館の革新に関する研究報告」

革新とは、日々の前進的な改善活動の中で起こる「変化」だと思います。伊豆市では、従来の組織を壊してフラットな組織構造にすることでコミュニケーションが円滑になり、誰かに言われたからやるのではなく、自発的に考えて行動するようになってきたという事例があります。学習して主体的に動き出す仕組みが大切です。「品質規格の統一」「エリア間の連携」を意識した静岡県全体を観光地と捉えていくことで、宿泊客の獲得の向上が図れるのではと考えます。

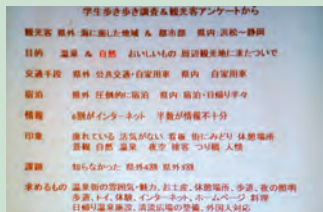


静岡産業大学情報学部教授

堀川知廣

「若者に魅力的な寸又峡温泉をデザインする」

学生と2泊3日、隅々まで見て歩いて、観光客150人にアンケートをとって研究しました。自然が売りの一つなので木々に囲まれている「森の中に沈む温泉街」というコンセプトはどうだろうかという意見がありました。アンケートから分かったことは情報をインターネットから入手していることが多いことなど新しい気付きが多かったことが印象的でした。寸又峡温泉振興のため、考察などを加えた調査報告書を提出するので活用してください。

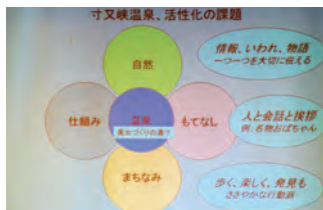


静岡文化芸術大学大学院教授

黒田宏治

「文芸大生・地域デザイン交流キャンプ2012報告より」

文芸大生と千年の学校学生が1泊2日で交流を行いました。学生たちの研究報告から、もてなしの部分の工夫が大切で、地元の人たちを生かすプロモーションがあってもいいと思いました。また、従来の美女づくりの湯というコンセプトと違った、若者に向けてのキーワードを考え発信していくことも必要だと感じました。お客さんも学習していくので、相互に学習し、情報発信していく回路が大切ではないかと思いました。



静岡県中部地域政策局

溝口 久

「寸又峡温泉の可能性と活性化」

由布院温泉観光協会・旅館組合事務局長などを務めた経験から、お湯についての提案をしたいと思います。他の人の提案を紹介しますが、美女づくりの湯にかけて、11月12日を「いい皮膚」と読み、「寸又峡の日」にしたらどうでしょうか？次に、今空いている旅館に手を加えて家族湯（外湯）に改造、露天風呂というメインのものがある家族湯が点在する温泉地、空間を区切り集中して夜空や広大な風景が楽しめるお風呂などはどうかと提案します。







(株)シーアイセンター代表取締役

甲賀雅章

「先輩・若者のリリーススピーチでのコメント」  
**浜谷さん**▼「食と遊び」というテーマが一貫していてストーリーができています。差異性が明確で、軸がしっかりしています。  
**渡村さん**▼人にスポットを当てて商品化しているというのはクリエイティブ思考です。人を巡るだけでなく、その面白い人に案内させればもっと売れる商品になります。  
**望月静馬さん**▼ちゃんと現状を理解しています。何が解決策なのかを考えた時、利害関係者を交えて宝物探しをしましょう。「寸又峡温泉を良くしたい」と思っている人、一泊二日の旅に御招待「みたいなキャンペーンをやって、夜通しアイデア会議をやったらどうですか？集まりますよ。  
**馬場さん**▼「ここにしかないもの」に注目、従来の視点にはばられないようにすることは大切な事です。



NPO法人サプライズ代表理事

飯倉清太

これからの時代、地域活性だけでなく地域経営にシフトしていて、どう稼いでいくかの段階にきています。伊豆市のスタイルは「思いついたらやれ」です。やってみて出来なかつたらダメなことが分かります。ずっと話して、やらないでいたらずっと答えが出ないもので終わります。行動することが一番大事です。  
「今、出来るのか」「1年後、出来るのか」「10年後、出来るのか」のフェーズを分けることです。クモの巣を払うことは「今、出来るのか」を考えれば簡単です。  
同じように「0円で出来るのか」「10万円で出来るのか」を分ければ、予算を確保する必要性が分かります。クモの巣を払ったり、看板をきれいにすることは「今、出来ること」。今出来ることは今やるというのが伊豆市のスタイルなんです。



寸又峡美女づくりの湯観光事業協同組合 理事長

望月孝之

寸又峡の街並みを整備していくにはかなりの歳月を必要としますので、このような山深い立地条件の中、街並みや景観をどうしていくのかというのを行政を含めて、考えていかなければならないと考えています。  
黒川温泉の後藤さんが言うように「客が来れば若い人が集まる、客が多ければ商売になる、多くの人が来れば出会いが出来て多くの人が集まる、だから何も心配する事はない」商売が出来ると環境をしっかりと作ることが大切であると思います。  
今回、貴重なご意見をいただきましたので参考させていただき、皆さまは、寸又峡の応援団になってくださると思いますが、どうぞ応援団以上のご協力をお願いします。地元もさらに頑張っていきますので、これからもご意見をお聞かせください。ありがとうございました。

## リリーススピーチ (参加者から)

- ▶最終的には「人の魅力」。そこから得られる有機的なものが地域を活性していくと思う。(三島市・女性)
- ▶「何かありそうだ」「ワクワクする感じ」を求めて旅します。今の人たちはSNSを通じて“自分発信”をしたがります。私は寸又峡の魅力を自己発信していきます。(長泉町・女性)
- ▶旅の楽しみとは発見。地元の人しか知らない場所に行き、よそ者を受け入れてくれること。(奈良県・女性)
- ▶初めて来る人を大切に、リピーターを作る。そのネットワークが地域活性につながる。(東京都・男性)
- ▶自然環境や人材など、ここにしかないものを生かしたまちづくりが必要だと感じました。(松崎町・男性)
- ▶2日間、このフォーラムでヒントを得ました。吊橋に変わる目玉商品の開発や露天風呂の再生など実現に向けて頑張ります。(地元男性)

